

## 詩

黒崎 與志雄

弱きものよ……。

□心の囁き

□弱きものゝ歎き

自分の言葉

眞實なる心の囁きを

ことごとく否定する人よ

(たとへそれが悪意を含まないにせよ)

私はお前に勝てない

お前は強者だ

救ふべからざる絶対の強者だ

お前をにくみ、恐るゝ前に

先づ自分の心の弱さが歎かれる

強者よ

お前に反抗して立たうとすると

涙に先立たれて

私の昂奮はもろくもくちかれて了ふ

あゝ

x

つまらない事ではあらう

だけれども

俺がするまでは

君もしなかつた

x

馬鹿野郎と

吐出すやうな大声で

ごなりつけたあとの、その後の氣持

x

盲動と徒勞の外に何がある

この人達のしてゐる仕事に

x

晝だから晝飯を食ふ

さういつた

習慣に生きて平氣なものだ

あしたから ×

あしたからだときめてゐる

何時になつても來ないあしたを

×

何時かは死ぬ

このきまりきつた事柄にも

死ぬまぎはまでは驚けないものか

×

屈從と妥協の中に人間の

安心を求め、生きやうとした

×

そんな事、氣にかけるなど

思ひながら

やつぱり、いつか

氣にかけてゐる

×

本當に自分自身を思ふとき

なつかしくなる廣い周圍だ

×

つくづく思ふ

この人間の各自が持つ

自信と云ふものゝ價値の如何を

×

自分のことを自分でするんだ

いまさらに

意味あたらしく考へて見る

×

たゞ自分は自分のことをしたらいい

さうきめて、やつと安心する

### □ 忍 従

忍ばう、凡てを

のゝしられても

打たれても

蹴られても

涙を流して

すべてを忍ばう

野では踏まれた莖が  
やつぱり笑つて

咲いてゐる

家では打たれた弟が  
打つた兄貴と遊んでゐる

我等も耐へて耐へて

のゝしられても怨まず

踏にじられても怒らず

凡てを忍ぼう

やがてにつこり

佛になるんだもの

これ計りの事で

瞋恚を起して

地獄なんか

落ちてたまるもんか

自分が黙つて忍べば

幾人かの不幸なるべき人達は

救はれるんだもの

おゝ、そうだ

忍ぼう

最後まで……、

□祈り

祈り！

眞實な祈り

かたちに對つての祈りではない

祈りがかたちを生むのだ

無から有が生ずるのだ

かたちのみを探ねる人には

寂寥と悲哀とがある

おゝ吾が祈りよ！

うれしき祈りよ

獨り人なき室に  
 涙と共に祈るとき  
 あゝ人間の世界に  
 これほど悦しい事が  
 ほかに又とあらうか

我にうれしさ  
 祈りあり  
 朝なく  
 夕なくに



## 童 謠

### □ 天上と下界

廣いく空の中  
 雲と雨とが手をつなぎ  
 舞つたり跳つたりをどつたり  
 下界の人々大さわぎ  
 傘をさしたり合羽をきたり  
 狭い小路を急いだり  
 下界と天上とはあべこべだ

橋 爪 要